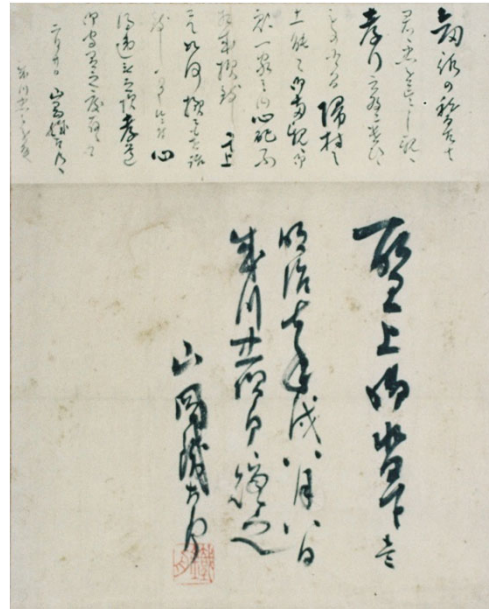


成川忠次郎

成川家の長男で、山岡鉄舟に憧れ慶應二年頃に弟子入りしました。

幕末・明治維新と鉄舟の元で剣の稽古に精進しておりましたが、成川家の長男なので家を継がなければならず、帰郷令が出ました。洪々帰郷する忠次郎に鉄舟は明治天皇から拝受した靴下を餞別に渡し、ねんごろな文を添えています。忠次郎の無念さが伝わってまいります。



山岡鉄舟が成川忠次郎に宛てた手紙

剣術の稽古者
君に忠を尽し親に
孝行之為遺ひし
毛のに候間帰村之
上能々御両親二御
願一家之内心配不
相成様致し其上
二て如何様二もを話
致し可申ス二付心
得違無之様孝道
御守有之度存候

聖上御沓下 壺

明治七年戊八月八日

成川忠次郎へ贈之

山岡鉄太郎

二月廿日 山岡鉄太郎

成川忠次郎殿

山岡鉄舟が成川忠次郎に宛てた手紙
読み下し